

第280回原医研セミナー

第44回放射線災害・医科学研究 機構・拠点研究推進ミーティング

以下のとおり開催いたしますので、ご参加くださいますよう、ご案内いたします。

開催日時：2026年5月26日（火）17時30分～

開催方法：オンライン

接続先：Zoom(ミーティング)ID：890 6191 5257

Zoom URL：

<https://us02web.zoom.us/j/89061915257?pwd=Uk93L2JWWDJ3dnFkYmkvSjFGN21DZz09>

Zoom パスワード：538773（上記 URL をクリックして参加する場合は入力不要です）

タイトル：被災者とともに歩んだ「ここから調査」：15年を振り返って

発表者：福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センター

准教授 堀越 直子 先生

調査と支援の両輪で始まった県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査（ここから調査）」。これまでの結果から、被災者のこころの健康や生活習慣は全体として徐々に改善傾向がみられる一方、震災から15年が経過した現在でも帰還できずに、避難先での生活が心身に影響を及ぼし続けていると想定される。また、長期にわたり実施しているアウトリーチ型の電話支援は、これまで4万人以上の方の声に耳を傾けてきた。震災当初の放射線への不安や生活上の困りごとへの支援にとどまらず、その後に相次いだ自然災害や新型コロナウイルス感染症など、社会的に大きな影響を及ぼす出来事にも寄り添いながら、被災者を取り巻く課題に対して継続的に支援を行ってきた。さらに、調査対象者の声や被災市町村からの要望を踏まえ、オンライン回答の導入や回答した方への結果通知書の送付、被災13市町村への結果報告会など、調査手法と還元体制の取り組みなど、震災からの15年を振り返り、被災者とともに歩み続けてきた「ここから調査」について報告する。

タイトル：トロトラスト症資・試料アーカイブの整備と今後の研究展開

発表者：長崎大学原爆後障害医療研究所 生体材料保存室（原研試料室）

助教 黒濱 大和 先生

長崎大学原爆後障害医療研究所は、本邦最大級のトロトラスト症資・試料データベース（注入者668例・FFPEブロック287例・線量情報197例）を継承・整備している。トロトラストは1930～50年代に使用されたX線造影剤で、肝臓・脾臓・骨髄などに沈着した主成分の二酸化トリウムが α 線を長年放出し、数十年の潜伏期間を経て肝血管肉腫をはじめとする悪性腫瘍を誘発する。肝血管肉腫の発生リスクは一般集団の1,600倍に達し、内部被ばく発がんモデルとして際立った特徴を持つ。臨床・病理・線量情報が一体化された本データベースは、知る限り国内唯一かつ世界的に貴重なコホートである。現在トロトラスト関連肝血管肉腫の発生病態と病理形態の特徴解析を進めており、本日はその概要を紹介する。本アーカイブを基盤として免疫組織化学・次世代シーケンス・AI解析へと展開する予定である。1940～80年代に作製されたFFPEブロックは、長期ホルマリン固定による抗原マスクングやDNA高度断片化など技術的困難を伴うが、その克服が本コホートにおける分子病理研究実現の鍵となる。

連絡先：広島大学霞地区運営支援部総務グループ（原医研主担当） 082-257-5802（内線5802）